

商品名 ヒスタブロック配合錠 医薬品基本情報

薬効	2459 その他の副腎ホルモン剤	一般名	ベタメタゾン・d-クロルフェニラミンマ レイン酸塩錠
英名	Histablock	剤型	錠
薬価	6.10	規格	1錠
メーカー	共和薬品	毒劇区分	

ヒスタブロック配合錠の効能・効果

アレルギー性鼻炎、薬疹、湿疹・皮膚炎群の急性期、湿疹・皮膚炎群の急性増悪期、蕁麻疹＜慢性例を除く＞

ヒスタブロック配合錠の使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、閉塞隅角緑内障、下部尿路に閉塞性疾患、前立腺肥大、デスモプレシン酢酸塩水和物投与中＜男性における夜間多尿による夜間頻尿＞	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 開放隅角緑内障、全身の真菌症、有効な抗菌剤の存在しない感染症、結核性疾患、消化性潰瘍、精神病、単純疱疹性角膜炎、後嚢白内障、高血圧症、電解質異常、血栓症、最近行った内臓の手術創、急性心筋梗塞の既往	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	原則禁止
3. 褐色細胞腫、感染症＜有効な抗菌剤の存在しない感染症・全身の真菌症を除く＞、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能低下、脂肪肝、脂肪塞栓症、重症筋無力症、B型肝炎の既往、B型肝炎ウイルスキャリア、投与開始前にHBs抗原陰性、褐色細胞腫又はその恐れ・疑い、パラガングリオーマ又はその恐れ・疑い、腎不全、肝硬変	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ヒスタブロック配合錠の副作用等

1. 続発性副腎皮質機能不全、糖尿病、膵炎、うつ状態、痙攣、錯乱、大腿骨頭無菌性壊死、上腕骨頭無菌性壊死、骨頭無菌性壊死、緑内障、後嚢白内障、発育抑制	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 誘発感染症、感染症増悪、B型肝炎ウイルス増殖による肝炎、急性副腎不全、胃潰瘍、消化性潰瘍、精神変調、骨粗鬆症、ミオパシー	記載場所	重大な副作用
	頻度	5%未満
3. 血栓症、再生不良性貧血、無顆粒球症	記載場所	重大な副作用
	頻度	0.1%未満

4.	過敏症、発疹、光線過敏症、鎮静、神経過敏、焦燥感、多幸症、複視、頭痛、めまい、耳鳴、前庭障害、情緒不安、振戦、感覚異常、ヒステリー、神経炎、協調異常、口渇、胸やけ、腹部膨満感、食欲不振、便秘、頻尿、排尿困難、尿閉、ステロイド腎症、低血圧、心悸亢進、頻脈、期外収縮、鼻乾燥、気道乾燥、気管分泌液の粘性化、喘鳴、鼻閉、溶血性貧血、白血球増多、肝機能障害、AST上昇、ALT上昇、ALP上昇、月経異常、糖尿、筋肉痛、関節痛、満月様顔貌、野牛肩、窒素負平衡、脂肪肝、浮腫、低カリウム性アルカローシス、中心性漿液性網脈絡膜症、網膜障害、眼球突出、多毛、脱毛、ざ瘡、皮膚色素沈着、皮下溢血、紫斑、皮膚線条、皮膚そう痒感、発汗異常、顔面紅斑、創傷治癒障害、皮膚菲薄化、皮膚脆弱化、脂肪織炎、発熱、疲労感、精子数増減、精子運動性増減、胸痛	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
5.	不眠、眠気、頭重感、腹痛、悪心、嘔吐、食欲亢進、下痢、血圧上昇、倦怠感、体重増加	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
6.	血小板減少	記載場所	その他の副作用
		頻度	0.1%未満
7.	眼圧亢進、緑内障、後嚢白内障	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
8.	B型肝炎ウイルス増殖	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
9.	誘発感染症、続発性副腎皮質機能不全、消化性潰瘍、糖尿病、精神障害、発熱、頭痛、食欲不振、脱力感、筋肉痛、関節痛、ショック、離脱症状、褐色細胞腫クリーゼ、著明な血圧上昇、動悸、心破裂、B型肝炎ウイルス増殖による肝炎、B型肝炎ウイルスによる肝炎、催奇形作用、新生仔副腎不全、発育抑制、頭蓋内圧亢進症状、感染症、骨粗鬆症、高血圧症、後嚢白内障、緑内障	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

ヒスタブロック配合錠の相互作用

1.	薬剤名等	デスマプレシン酢酸塩水和物	投与条件	-
	発現事象	低ナトリウム血症		
	理由・原因	-	指示	禁止
2.	薬剤名等	中枢神経抑制剤	投与条件	-
	発現事象	相互に作用を増強		
	理由・原因	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩の中枢抑制作用により、作用が増強	指示	慎重投与
3.	薬剤名等	アルコール		

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩の中枢抑制作用により、作用が増強	指示	慎重投与

4. 薬剤名等：MAO阻害剤

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩の解毒機構に干渉し、作用を遷延化（増強）	指示	慎重投与

5. 薬剤名等：抗コリン作用を有する薬剤

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	-	指示	慎重投与

6. 薬剤名等：ドロキシドパ

発現事象	血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩がヒスタミンによる毛細血管拡張を抑制	指示	注意

7. 薬剤名等：ノルアドレナリン

発現事象	血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩がヒスタミンによる毛細血管拡張を抑制	指示	注意

8. 薬剤名等：バルビツール酸誘導体

発現事象	副腎皮質ホルモン剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	バルビツール酸誘導体、フェニトイン、リファンピシンはP-450を誘導し、副腎皮質ホルモン剤の代謝が促進	指示	注意

9. 薬剤名等：フェニトイン

発現事象	副腎皮質ホルモン剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	バルビツール酸誘導体、フェニトイン、リファンピシンはP-450を誘導し、副腎皮質ホルモン剤の代謝が促進	指示	注意

10. 薬剤名等：リファンピシン

発現事象	副腎皮質ホルモン剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	バルビツール酸誘導体、フェニトイン、リファンピシンはP-450を誘導し、副腎皮質ホルモン剤の代謝が促進	指示	注意

11. 薬剤名等：エフェドリン

発現事象	副腎皮質ホルモン剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	バルビツール酸誘導体、フェニトイン、リファンピシンはP-450を誘導し、副腎皮質ホルモン剤の代謝が促進	指示	注意

12. 薬剤名等：サリチル酸誘導体

発現事象	血清中のサリチル酸濃度が上昇しサリチル酸中毒	投与条件	併用時に副腎皮質ホルモン剤を減量
理由・原因	副腎皮質ホルモン剤は、サリチル酸誘導体の腎排泄と肝代謝を促進し、血清中のサリチル酸誘導体の濃度を低下	指示	注意

13. 薬剤名等：抗凝血剤

発現事象	作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	副腎皮質ホルモン剤は血液凝固促進作用がある	指示	注意

14. 薬剤名等：糖尿病用薬

発現事象	作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	副腎皮質ホルモン剤は、肝臓での糖新生を促進し、末梢組織での糖利用を阻害することによる血糖上昇作用がある	指示	注意

15. 薬剤名等：利尿剤

発現事象	副腎皮質ホルモン剤との併用により低カリウム血症	投与条件	-
理由・原因	副腎皮質ホルモン剤は、尿細管でのカリウム排泄促進作用	指示	注意

16. 薬剤名等：ソマトロピン

発現事象	効果が減弱	投与条件	-
理由・原因	副腎皮質ホルモン剤	指示	注意

17. 薬剤名等：シクロスポリン

発現事象	血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤はシクロスポリンの代謝を阻害	指示	注意

18. 薬剤名等：非脱分極性筋弛緩剤

発現事象	筋弛緩作用が減弱又は増強	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

19. 薬剤名等：リトドリン塩酸塩

発現事象	ベタメタゾンの注射剤との併用により肺水腫	投与条件	-
理由・原因	体内の水分貯留傾向が促進	指示	注意

20. 薬剤名等：エリスロマイシン

発現事象	ベタメタゾンの作用が増強
------	--------------

投与条件	-
------	---

理由・原因	エリスロマイシンのCYP3A4に対する阻害作用により、ベタメタゾンの代謝が抑制
-------	---

指示	注意
----	----

21. 薬剤名等：ワクチン

発現事象	神経障害、抗体反応の欠如
------	--------------

投与条件	-
------	---

理由・原因	副腎皮質ホルモン剤
-------	-----------

指示	注意
----	----

	薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量 医薬品データベースの決定版 『 DIR 』
---	---